

今年度の秋田 CT テクノロジーフォーラムは、新型コロナウイルス感染防止のため、Web によるオンライン開催となった。参加者は 95 名（県内の会員 64 名、賛助会員 6 名、県外からは講師を含む 25 名）で過去最多であった。

今回は「CT の Energy を考える（低・高 kV の有用性/Dual Energy CT の臨床活用）」をテーマに、基調講演として仙台オープン病院 石黒彩菜先生より『X 線 CT において実効エネルギーの変化が画質に与える影響の定量的評価』、続いて県内施設から『CT の Energy – 臨床活用について』シンポジウムを行った。石黒先生の講演は実効エネルギーの異なるキヤノン社製 CT 装置 2 台を使い、画像ノイズと CT 値を比較したもので、同一管電圧・同一線量の設定であっても、モジュールの CT 値は変化が少なく、実効エネルギーの高い方が SD を低くできる内容であった。また、シンポジウムは 5 題の発表があり Single Energy から高 kV 撮影について市立秋田総合病院 工藤和也会員の『SECT における管電圧の変化が心臓 CT 画像に与える影響の基礎検討』、以下 Dual Energy CT の臨床活用から能代山本厚生医療センター 櫻井直人会員の『当院 DECT の紹介～ツインビーム CT について～』、秋田大学医学部附属病院 斎藤将太会員の『下肢静脈撮影における DECT の臨床活用について』、市立横手病院 佐藤裕基会員からは『当院における DECT の臨床活用』、秋田県立循環器・脳脊髄センター 松本和規会員から『当院の Dual Source システムによる DECT の臨床活用』について報告があった。

特別講演は広島大学大学院医系科学研究科 先進画像診断開発共同研究講座 准教授 檜垣徹先生より『Dual-energy CT の基礎と最新動向』についてご講演があり、Dual-energy CT の原理や精度の高い診断につなげるための基礎知識、臨床活用について最新の話題も取り入れながら分かりやすく解説していただいた。

今回初めての Web 配信で事前のテストも行われたが、前段予定していたエーザイ株式会社の「造影剤の安全使用に関する情報」がパソコンの不具合から紹介できず、続いての講演も配信速度の影響から映像と音声にズレが認められた。演者や視聴された参加者にはご迷惑をお掛けしたが、全体を通してとても有意義で満足のいくものであった。最後に企画の立案から演題発表、座長を担当された世話人の皆様、ご協力いただいたエーザイ株式会社の担当者のご尽力に感謝いたします。

（文

責：柴田 輝雄）